

新聞を読んで大学に行こう

—ヤル気を身に付けるには新聞が一番—

開倫塾

塾長 林 明夫

(日本 NIE 学会会員)

Q：新聞を読めば、大学に行けるのですか。

A：(林 明夫。以下略)はい。小学生は 20 分、中学生は 40 分、高校生は 1 時間以上、毎日一定の時間以上丁寧(ていねい)に「新聞を読み考える」習慣が身に付けば、大学に行けます。

Q：なぜですか。

A：勉強する上で一番大切なのは、「ヤル気」です。同じ授業を聴いていても、ただ着席して「ボー」としているだけの人と、目を輝(かがや)かせて先生の言うことを一語一句(いちごいっく)聞き漏(も)らさないようにしている人とは、「理解」の度合(どあ)いが 1 対 10 以上違います。

まして、「うん、なるほど」と一度「理解」した内容を正確に身に付ける「定着」のための作業をする段階になると、「ボー」としている人と、何がなんでも全部覚え込んでやるぞと意欲を燃やしている人とは、「学習効果」が月とスッポンほど異(こと)なります。

ダラダラと時間つぶしのような勉強をしていたのでは、学校の定期試験でよい点数を取ることにはできませんし、ましてや偏差値の出る模擬試験はもとより、一番大事な入学試験でも合格点を取ることにはできません。誰もが文字通り「一所懸命」(ひとつの所で命を懸けるくらいの熱心さ)に勉強に取り組んでいるからです。

勉強にとり一番大切なのは「ヤル気」です。その「ヤル気」を身に付けるのに最も効果のある方法の一つが、毎日確実に「新聞を読んで考える」習慣を身に付けることです。

Q：なぜ、高校生だけでなく中学生も毎日一定の時間以上「新聞を読んで考える」習慣が身に付けば、「ヤル気」が身に付くのですか。

A：試(ため)しに、この文章を読んだあと家族の許しを得て前(まえ)の日の新聞を手にし、毎日一定の時間以上読むことを 1 か月間続けてみて下さい。前(まえ)の日の新聞を 1 日中手元に置き、わずかな時間ができたら折りにふれてコツコツ読む。一つ一つの記事を腰を落ち着けてゆっくり読み、これは一体なんの(なに)ことかを考える。なぜこのようなことが起こっているのかを考える。この問題についてどう考えるかを自分自身に問(と)うてみる。気になった記事は切り抜き、日付をメモして保存する。それを何回も何回も読み直して、深く深く考えてみる。

このような 1 か月を、この文章をお読みになった今日から始めてみることを「おススメ」します。軽い準備運動をしているとジワっと体が温かくなってくるように、今私がお話したような方法で

1日一定の時間以上「新聞を読んで考える」ことを続けると、しだいに頭が回転し始め何かしなければと「ヤル気」がムラムラと沸(わ)き上がってきます。

Q：どのように新聞を読んだらいいのですか。

A：初めは、自分のお気に入りのページからゆっくり読んで下さい。好きなページからゆっくりなめるように読むことが、新聞に親しむコツです。そして、できれば今まであまり読んだことのないページも少しずつ読み親しんでみると、皆さんの世界が少しずつ広がってくるのが実感できます。

無理は決してしないこと。少しずつ少しずつ読むページを増やしていくことが、「新聞を読んで考える」習慣を身に付けるコツです。

Q：最後に一言どうぞ。

A：高校を卒業するまでに「毎日1時間新聞を読んで考える」習慣が身に付けば、大学に行けると私は確信しています。

また、学校を卒業後に、「ディーセント・ワーク」つまり経済が発展している日本では「収入が確保された上で個々人の自己実現の欲求を満たす仕事」に就く上でも、「新聞を読んで考える」習慣が身に付いていることは極めて有利であると確信します。

10月は新聞週間が設けられている月でもありますので、どうかじっくり「新聞を読んで考える」ことをスタートしてみてください。

－ 9月17日 国際連合大学にて記す－

開倫塾では、「NIE(教育に新聞を Newspaper in Education)活動」を推進しています。保護者の皆様にはお願いです。前日のいらなくなった新聞を、お子さんにプレゼントし、新聞を読むチャンスをあげてください。